

組合ニュース 山梨大学教職員組合

Tel (内線): 8097

直通 (Fax): 254-2667

E-Mail: kumiai@nashidai-
union.org

今回の学長選考会議の過程及び 結果に対する意見のお願い

昨年の学長選考会議では、97%の投票率であった学内意向投票の結果が覆され、第2位の候補者が新学長候補として選出されました(2014年11月12日)。この結果に対して、多くの教職員より疑問の声が上がりました。私たち教職員組合でも、この結果に対してニュースNo.4(2014年12月3日)でその問題を指摘し、学長選考会議に対して、教職員が疑問を抱くような結果となったことについて、構成員の声を真摯に受け止め、誠実に「説明責任」を果たすことを求めるビラを出しました。また、組合だけでなく、工学部、教育人間科学部からも、学長選考会議の結果及びその選考過程に対してさらに説明を求める要望書が提出されました。これは、近年の本学の学長選考においては異例のことであったと思います。

学長選考会議では、工学部、教育人間科学部の要望書を受け、昨年12月8日付で「学長選考会議からのお知らせ」で、要望書に示された意見に答える形で、今回の結果に至った経過を説明しています。

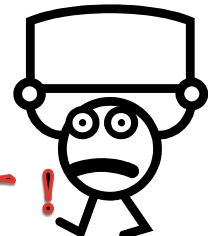
しかし、組合には、今回の説明に対しても、不明な点が多くなお疑問が残るなどの意見などが寄せられています。私たち組合としても、今回のお知らせをもって、私たちが納得のいく形で問題が解決したとは思っておりません。ですが、このまま何も声を上げなければ、今回のような問題が積み残されたまま、4月より新体制がスタートしてしまい、大学全体にとっても望ましくないと考えます。

そこで、組合では、教職員の声がかかりと反映される民主的な大学運営が行われるためにも、皆さんの声を組合としてまとめ、学長選考会議だけでなく新旧役員に対して、今回の学長選考過程の問題を指摘し、学長選考の結果及び学長選考会議のあり方の見直しを求めていきたいと考えています。

組合員・非組合員にかかわらず教職員の皆様には、以下の2点について、率直なご意見や疑問などを2月20日までにお寄せください。

- 1) ファイルにある「学長選考会議からのお知らせ」の内容に対する疑問やご意見
- 2) 今回の学長選考会議のあり方に対する疑問やご意見

ご意見は、①組合執行部へのメール(sikkou14@nashidai-union.org)、②組合HP内のお問い合わせのページ(<http://www.nashidai-union.org/modules/contact/>)、③学内便(山梨大学教職員組合宛)または工業会館東側ポスト、へお寄せください。匿名でお送りいただいても構いません。



皆さんの一人一人の声が大学を動かします!

現在、組合に寄せられている意見の一部をご紹介します。

説明責任を果たしたとは言えない。意向投票の結果を覆したわけであるので、その理由をかなり具体的に提示してもらう必要がある。

今回の学長選考会議の件では、結果への驚きが怒りに代わり、その後、無気力な感じになっている自分が一番恐ろしく感じています。

少なくとも見聞きする範囲において、甲府キャンパスの教職員には不信感、無力感が充満しているように感じる。教職員が意欲を持って積極的なアイデアを出し協力していこうという気風が大学の活性化には必要だが、今回の決定はそのような気風醸成とは逆の効果をもたらし、長期的な禍根を残すものとなっている。選考委員会あるいは監事等のしかるべき立場の人は、職場に分け入り、今回の判断がもたらしたものを検証すべきではないか。特に、経営協議会から選出された委員は役員等からの情報ではなく、ぜひ現場の状況を見てもらいたい。

学長選考会議の学外委員が全く中立的な立場で選考を行ったかについては非常に疑問を感じます。学外委員が今回のように学長選考に多大な影響を及ぼすことを考えると、次期執行部における学外委員は、4学部からの推薦により、公正中立な、バランスの取れた、優れた人物を選ぶよう早急に働きかけることを強く希望します。

経営協議会メンバーが学長指名である以上、学外委員を経営協議会メンバーから選ぶことは、同じシステムを永続させるための装置となっている、あるいはそうなる可能性が強いと言えないか。このことを役員及び経営協議会はどのように考えるのか、現在の委員云々ではなく、制度設計自体について見解を伺いたい。

ご意見募集 Google で「お問い合わせ」へ

学外サイトで学外からなら全く匿名が可能です。手書きの方は下欄か適当な用紙をお使い下さい。

ご所属（） お名前（） ※記入は任意です。